

2024(令和6)年9月

習志野市男女共同参画社会づくり情報紙

第58号

# きら *Kira Kira* きら

特集 多様な文化への理解

～国際交流ボランティアの経験から～



訪問団送別会（フェアウェルパーティー）での様子

性別、年齢、国籍、価値観など多様な人々が生活する現代社会では、それらを互いに尊重し、認め合うことが大切です。

今号では、国際交流ボランティアを通じ、ホストファミリーとなり滞在中の訪問団の生活を支えた女性にお話を伺いました。

# 多様な文化への理解

～国際交流ボランティアの経験から～

## きらきら☆ インタビュー

三代川 朋子さん (市内在住)

令和元年から習志野市国際交流協会\*で行う活動に興味を持ち参加。今回初めてタスカルーサ市からの訪問団の受け入れを経験。一方で、サポートスタッフとして交流活動を支援した。夫と中学1年生の息子との3人家族。



### 国際交流ボランティア活動を始めたきっかけ

習志野市が姉妹都市のタスカルーサ市（アメリカ）と青少年交流を通じた国際交流事業をしていること、そして活動を支援している習志野市国際交流協会があることを友人の紹介で知りました。私自身が学生のように英語の勉強をしており、アメリカ留学で、半年ほどホストファミリーにお世話になった経験もあり、以前からこの国際交流事業に興味がありました。

息子が成長して少し手が離れ、自分も何か活動に関わりたいと思い始めたころ、友人の紹介でこの協会でのボランティア活動（主に広報活動）を始めました。いろいろなイベントに行き、写真や資料を通して、市民の皆さんに私たちの活動を知っていただくことを行っています。

いつかは訪問団の受け入れもやってみたいと思っていましたが、活動を始めたときは、まだ息子が小さかったですし、実際に受け入れることに不安がありました。そのため、令和2年度の青少年交流のときは、サポートスタッフとして関わることにしました。

この年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりましたが、受け入れ準備を進める中で、雰囲気をつかめたこともあり、6年ぶりとなる今年の青少年交流では、ホストファミリーになろうと決めました。

### 家族の反応と協力

自分自身はホストファミリーとして受け入れをしたいという強い思いがありましたが、いざ受け入れるとなれば、夫や息子の気持ちも尊重しなくてはいけないと感じていました。2人とも私のこれまでの活動の様子も見てくれていましたし、なんとなく気持ちを伝えていたので、夫と息子は「お母さんは訪問団を受け入れたのではないかと察していたのだと思います。夫は、普段から洗濯やゴミ出し、食事の片付けなど、いろいろとやってくれます。そのうえ今回の受け入れに際しては、部屋を整えたり、送迎をしたりと積極的に協力してくれました。息子に「(ボランティア活動を) やってみたいけど、大丈夫?」と聞いても「・・・(無言)」でしたが(笑)。

家族で案内した▶  
浅草寺の前で



### ホストファミリー・サポートスタッフを経験して

17歳の男子高校生が我が家でホームステイをすることになりました。初対面のとき、彼の荷物が2～3日遅れるという出来事があったのですが、当の本人は全然動揺してなくて、ちょっとしたカルチャーショックを受けましたね。ホームステイ中は息子の部屋を貸していましたが、服が脱ぎっぱなしだったりして驚きました。一方で、息子と一緒にゲームをしていた時に楽しんで盛り上がっている様子を見て、言葉が通じなくても伝わるものがあると感じました。

この経験を通じて、息子には、感じたこと・考えたことがあれば、それを生かしてほしいと伝えました。私は、子どもや家族との時間を大切にしながら、自主性と個性を尊重する子育てをしていきたいと改めて思いました。

今回は、ホストファミリーとサポートスタッフの2つの立場から訪問団と間近で関わることができました。ボランティア活動はやりがいがありますが、仕事や家庭がある中での活動は、難しいときもあります。そんな時はボランティア同士で声を掛け合いながら助け合い、それぞれの状況に合わせた活動ができるようにしています。

また、サポートスタッフとして同行した市内の高校での訪問団と日本の学生との交流を見て、アメリカの子どもたちの文化や考え方などを知り、自分が留学した時とはまた違う視点で多文化を感じる事ができ、貴重な体験でした。



習志野市章とタスカルーサ市章

### 編集後記

三代川さんのお話を伺って、「多様性」とはもっと身近にあるものだと感じました。アメリカ人である訪問団はもちろんのこと、家族、職場、友人関係など「他人を認めて尊重する」ことから始まるのかもしれませんが。それには自分自身がおおらかに接することができるよう、日々自己を整えていくことも大事だと感じました。

習志野高校での  
茶道体験の様子▶



◀市内の和菓子店で  
和菓子作りに挑戦!

## 姉妹都市青少年交流事業について

姉妹都市青少年交流事業は隔年で行っており、今年度はコロナ禍を経て6年ぶりに行われました。受入期間中、19名の訪問団(男9名・女10名)は、ホームステイや市内4高校との交流、市内施設の見学など、さまざまな体験を通して日本の生活・文化に触れ、友好を深めました。

受入：令和6年5月28日～6月10日実施  
(市から国際交流協会への委託事業)  
派遣：令和6年7月20日～8月2日実施  
(国際交流協会独自事業)

### \*習志野市国際交流協会 (NIA)

習志野市がアラバマ州タスカルーサ市と姉妹都市提携をしたことを契機に設立されました。会員の年齢層は幅広く、国際交流の推進と多文化共生の地域づくりを目指し、各部会に分かれて活動しています。

- 国際交流部会** 隔年でタスカルーサ市と高校生との派遣・受け入れ事業を実施
- 文化交流部会** 会員同士や在住外国人とのコミュニケーションと親睦を図るための活動を実施
- 日本語教室部会** 在住外国人が安全で楽しい日常生活を過ごすため、ボランティアによる日本語教室を開催
- 広報部会** 会員相互の情報の共有や活動への参加を呼びかける会報「スクウェア」やホームページを担当

編集委員のおすすめ図書 

## 「定年オヤジ改造計画」

著者：垣谷美雨  
祥伝社（発行 2018 年）  
貸出番号：367-A-158



「男は仕事、女は家事、育児、女性には母性がありその才能が備わっている」との固定観念のもと、主人公の庄司恒雄は、家庭を顧みず働き家族を養ってきました。定年後は、悠々自適の生活を夢見ていましたが、「夫源病」を患う妻からは煙たがられ、娘には「父さんは間違っている」と非難され、孤独と暇を持て余す毎日を送ることに。そんなある日、共働きの息子夫婦から孫二人の保育園のお迎えを頼まれます。育児の世界に初めて足を踏み入れた恒雄は、時代が加速度的に変化していく中、ようやく会社人間だった自分の位置を自覚し危機感を覚えます。そして自分自身が変わり、若い世代の暮らしに協力することを通して社会を変えようと立ち上がるのです。定年オヤジが、離婚回避、家族再生を目指して人生最後の大事業に挑む、高齢化社会を賢く生き抜くヒントが詰まった一冊です。

◆上記図書は男女共同参画センターで貸出しています◆

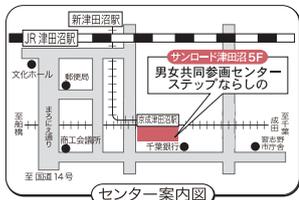
### 図書の貸し出しについて

\* 市内在住・在勤・在学者対象  
\* 1回5冊まで、期間は2週間

右記 QR コードから市ホームページ内「情報ライブラリ」にアクセスし、男女共同参画センター図書一覧から本を決定、ちば電子申請サービスまたはお電話でお申込みください。



問合せ 習志野市津田沼 5-12-12  
サンロード津田沼 5 階  
電話 047(453)9307



## きらきら★キーワード 「オルタナティブスクール」

これまでの学校教育とは異なる理念や教育法を取り入れた学びの場で、「もう一つの学校」とも言われています。オルタナティブとは「代替えの」「代わりの」という意味で、オルタナティブ教育の特徴は、子どもの主体性を重視し、一人ひとりの個性を尊重した学習が行われます。子どもの好奇心や興味関心に基づいて、学習プランや生活ルールを決める場合が多く、また、子どもが主体的に決めていくなど、多様な取り組みが行われています。認可を受けている学校が少ないなど、まだまだ一般的ではありませんが、社会の「当たり前」以外の考え方や生き方があることを再認識することができます。教育の機会を失わず、学校に馴染みにくい子どもにとって生活しやすい場の一つなのかもしれません。

## ◆男女共同参画コラム◆

### 「家庭内における男女共同参画」

日本のジェンダー・ギャップ指数 (GGI) は 146 カ国中 118 位となっています (令和 6 年 6 月 12 日発表)。先進国でありながら順位が低いのは日本独特の社会通念によるものなのでしょうか。明治時代には家父長制が始まり、男尊女卑の傾向が強まりました。今回の特集に関連して、米国人の妻を迎えた知人 (日本人) の話を思い出しました。仕事で米国に 3 年間駐在し、その後、米国人の妻と帰国し、夫と妻と夫の母との同居生活が始まりました。米国流の家事分担で妻が料理し、夫が後片付け。ごく自然に分担していたのですが、母は息子が家事を手伝うことが受け入れられず、「まあ、こんなに手が荒れちゃって」と息子の手を見てイヤミを言ったそうです。妻が日本人なら察して気にしたのですが、言葉どおりにとらえた米国妻にはイヤミが通じず、母がヤキモキするだけで、いたって平和な日々だったそうです。それぞれのよい所を取り入れ、よりよい男女共同参画の生き方を模索したいものです。

## 女性の生き方相談

\* 無料 \* 要予約 \* 秘密厳守 \* 市内在住・在勤・在学者対象

◎夫婦のこと ◎家族のこと ◎人間関係のこと ◎自分自身の生き方について ◎これはDV? (ドメスティック・バイオレンス) …など 初めての方も安心してご相談ください。

<面接相談> 女性の専門相談員があなたと一緒に考えます。

日時：第1・第3金曜 (夜間相談)

午後 1 時 30 分～4 時 15 分・午後 5 時 30～8 時 15 分

第2・第4 火曜、第3 水曜

午前 9 時～11 時 45 分・午後 1 時～4 時 45 分

相談時間：1 回 45 分

申込：多様性社会推進課 047(411)8017

## きらきら編集委員募集中!

「きらきら」は、市職員と市民ボランティアの編集委員が協働で発行しています。

編集会議は、平日の月 1 回・オンラインによるリモート参加も可能です。見学いただくこともできますので、ご興味がある方は多様性社会推進課までご連絡ください。

よりよい紙面づくりのため、記事等に関するアンケートを実施しています。皆さんの率直なご意見・ご感想をお聞かせください。

【回答方法】

右記の QR コードから回答してください。

